

富士特別支援学校富士宮分校 令和7年度 第2回 学校運営協議会 【報告】

1 学校運営協議会委員（敬称略）

山元 薫	（やまもと かおる）	静岡大学准教授
遠藤 久仁子	（えんどう くにこ）	富士宮市社会福祉協議会事務局次長
関澤 新一	（せきざわ しんいち）	株式会社大一セラム 代表取締役
竹山 幸男	（たけやま ゆきお）	琴平区長
小谷 和之	（こや かずゆき）	静岡県立富士宮北高等学校長
鈴木 明哲	（すずき あきのり）	令和7年度PTA会長

【教職員】

高田 宗享	（たかだ むねたか）	校長
若松 唯晃	（わかまつ ただあき）	教頭
村松 昇	（むらまつ のぼる）	高等部主事
大河原 明希子	（おおかわら あきこ）	教務主任

2 次第

- (1) 開会 進行（教頭）
- (2) 校長あいさつ（高田校長）
- (3) 前期学校の取組について（教頭）
- (4) 議事 司会:山元会長
「生徒が主体的に参画する地域での活動について」
- (5) 閉会（高田校長）



○校長あいさつ

前期の評価を本日報告し、来年度を見据えて学校を展開したい。また、富士宮北高校との交流において「人と人が交流し始める意識がすごく強まった」と感じている。先日行われた宮北とのサッカー部の練習試合では、富士宮北高の先生が分校の生徒にも熱心に指導する姿が見られ、分校の生徒が富士宮北高の生徒と同じように見てもらえているという実感が得られた瞬間であり嬉しく思う。地域との交流という面からもご意見をいただきたい。

○前期学校評価及び取組について(教頭)

*前期学校評価及び主な活動について教頭より説明。

山元様)分校側から見た共生・共育の具体的な成果について

部主事)継続的に実施する中で生徒同士のかかわりを増やす工夫を考えている。新しい取組(プロプロ等)はこれから生徒に伝えていく。

教頭)生徒総会でのグループワークやアンケートで「北高の図書館を利用したい」「球技大会を一緒にやりたい」といった生徒のアイデアや希望が出始めている

山元様)授業の前に交流があることが大事。富士宮北高の先生がどのように指導しているのかを分校の生徒が見て学ぶことも大事。

山元様)学校評価のコメントの記載内容から、教員の倫理観の低下はあるのか、またどのように保とうと考えているのか。

教 頭) 教員間で心理的安全性を確保し、普段のコミュニケーションでお互いに正し合える環境づくりが重要であると考えている。

遠藤様) 学校見学会での中学校等の反応はどうであったか。

部主事) 初めての土曜日開催であったが、140 人の参加があった。参加者からは「作業学習のイメージが湧く」「見通しが持てた」という意見があった一方で、教科学習の様子を知りたいという声が多かった。

校 長) 入学する生徒は知的障害があることが前提。そこは保ちつつ PR しなくてはいけない難しさがある。

小谷様) 高校から中学校への説明については、中学校側が設定する会がある。また依頼があれば説明に行くこともある。

鈴木様) 中学校の保護者側からすると、どのような学校かわからないというイメージが先行している。過去の「とても厳しい学校」というイメージの保護者もいる。インスタグラムは見ている保護者は多い。わかってもらうことに役立つ。

関澤様) 倫理観、人権は企業においても難しく時間がかかる問題。今の意識のまま少しずつ進めていけるとよい。また、小中学校との交流は継続してほしい。保護者に情報が伝わりやすくなり、学校側の考え方も変わってくると思う。

小谷様) 共生・共育推進の中で信頼関係や風通しのよさを感じる。生徒にも伝わり、心理的安全性が高まってきている。富士宮北高の生徒からも分校の意識が高まってきている。一緒に授業ができれば北高生にとっても良いことである。

竹山様) 12 月に地域防災を合同で行う。連携した仕組みも考えていきたい。生徒が地域の中に溶け込んでいけるのか楽しみである。地域を含めて生徒が積極的に取り組める活動を考えていきたい。

.....
協議

「生徒が主体的に参画する地域での学習について」

* 教頭より資料説明

小谷様) 高校も小規模化していくことでエネルギーを出しにくくなるが、4 高校が集まることでエネルギーを出す場になると思う。いろいろな人が一緒にやる機会を持つことが良いことにつながると思う。自主性をどう身に付けるかということは、個々の問題にもなる。具体化して生徒たちに投げかけたいと思っている。

遠藤様) 社会で生きる人とキャリア教育はイコールと感じる。今も十分にやっていると思う。

鈴木様) 例えば、富士宮市名産品のコンペなど、高校生も商品を出している。名産品を生徒のアイデアで生み出すことがあると、学校教育と地域でリンクするのでもいいのかと思う。また、地域のお祭りの参加も減ってきている。お祭りの前に清掃活動をするなどの地域活動をするのも良いと思う。

関澤様) 主体的に社会で生きるというのは、普通にいる人でも難しい。目的として何を学ぶのか。生徒の学びを拾い上げることが主体的につながるのではないのか。また、「宮分」という言葉を多くの人には知らない。宮分ブランドをもっと広げていけると良い。オープンなところに製品等を置いてブランド化することも考えられる。宮分という言葉が独り歩きするようになれば富士宮分校を知ってもらうことにもつながる。例えば市役所などをうまく活用して広げていけると良いのではないか。

竹山様)少子高齢化の時代で生徒数は減っている。若い子にいかに関西に残ってもらうかが、地域としても課題。地域の文化を生徒がどうとらえて、どう発想してかれるのか。分校の生徒の柔軟な発想を活かせるといい。

山元様)子どもたちが入学したときに合言葉がしっくりくるのだろうか。富士宮を元気にしたくて入学するのか。子どもたちがどのように思うのか吟味する必要がある。これまで富士宮分校では、作業学習で地域を意識して行ってきており、地域の人に受け入れてもらおうとプライドをもって行ってきている。地域を元気にするという視点を全面に出すと教員の負担感が大きくなり、焦点がぶれるのではないか。生徒の意見や今まで積み上げてきたことを尊重し、地域と一体となった教育が大切ではないか。

鈴木様)保護者として、先生方が生徒のやる気をあげていただいている。生徒が考えるための仕掛けをこれからも継続してくれれば、生徒は様々な体験ができ、将来の財産になると思う。

関澤様)企業側は学校見学に行きたいが、いつ行けるのかわからない。案内がうまく伝わっていない可能性がある。一般に目に届くような形で案内が出せると興味のある企業に届くと思う。

遠藤様)職員の働きやすい環境は改善されてきている。職員の幸せが生徒の幸せにつながる。学校開放日等を設定し、誰でも見に来ていい日をつくることで、生きにくいと感じていた保護者も見学ができるようになるのではないか。

竹山様)富士宮分校の生徒は発想が豊かだと思う。富士宮の人やもの、こととつながっていければと思う。

山元様)富士宮分校は子どもの「なりたい自分」目指し、想いをとても大切にしている学校。積み上げてきたカリキュラムの良さを見直し、子どもの声を受け止め、言葉を大切にしている。そこは継続して、日々の授業で子どもを育てることを大切にしてほしい。共生できる土壌を広げるチャンスの時期でもある。富士宮北高と互いに刺激し合い、互いの資源を出し合いながら特徴を出していくことで、中学校の生徒にも魅力として伝わっていくと思う。

○閉会あいさつ(校長)

時代が変わり求められるものも違う中で、教員が多様な価値観を吸収する必要がある。皆様にいただいたご意見を評価に反映させていきたい。また、教育効果を上げるために、学校の中だけでなく「外に出て、本物に触れながらやっていく」教育が重要だと感じる。富士宮北高との関係をさらに築き上げていきたい。

表現方法や言葉等で正確ではないところ、また発言内容を一部解釈し、変換した表現になっている部分もあります。

御理解御了承いただきますようお願い申し上げます。

次回のお知らせ

～第2回学校運営協議会～

日時 令和8年2月24日(火)午前9時から正午まで(予定)

内容 令和7年度学校評価

学校関係者評価委員会

令和8年度学校経営について